

原水協活動 FAX News

発行:原水爆禁止日本協議会

電話03 5842 6031 FAX03 5842 6033

URL <http://www.antiatom.org/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2008年12月8日 No.96

12月6・9行動各地で一つぎつぎ署名

被爆者の訴えに高校生が涙 - 北海道

北海道原水協は12月6日、6・9行動を札幌市内の中心街で行いました。北広島市の浜田種樹さんは「私たちは核兵器をなくすことができます。被爆国日本の署名は大きな力を持っています。世論の力で核兵器廃絶の国際条約を結ばせましょう」と署名への協力を呼びかけました。中央区原水協の富堂保則さんは「核兵器がなくなり、平和な未来を語れるようにしていきたい」と希望を語りました。

北海道原爆訴訟原告弁護団の斉藤耕弁護士は、9月の札幌地裁7人全員救済判決に触れ、「厚労相がやるべきことは、控訴して無駄に裁判の引き延ばしを図ることではなく、1日も早い原爆症認定申請の抜本的改正と被爆者救済です」と訴えました。

北海道被爆者協会の服部十郎さんが、小学生に「原爆が落とされると人間も死んでしまうし、家もなくなってしまおう」と丁寧に話すと、2人は連れ立って署名しました。

「今話しているのは63年前の広島で被爆した人だよ。やっと生き残った被爆者は、核兵器をなくしてほしいと訴えているんだよ」と説明を聞いて、署名していた女子高生が「生きていてよかった」と涙を浮かべながら語りました。行動では5500円の募金が寄せられました。

寒波の中独自の6・9行動 - 兵庫・中央区原水協

中央区原水協は12月6日、中央区生田診療所前で2回目となる独自の6・9行動を行いました。渡部事務局長が「2010年の核不拡散条約再検討会議成功のための国連要請署名」にご協力をと訴えました

この冬いちばんの寒波と寒風で足早に通り返る人の多かった中、6人の参加で40人から国際署名が集まりました。この行動に生田診療所の坂本師長と川崎事務長が参加しました。



署名行動をする神戸民商久保田氏

地道に署名活動 - 千葉

新婦人千葉県本部から同県原水協に新署名が4350筆届きました。夏からの取り組みの成果といえます。地域で行動日を決めて取り組んでいる支部や、中には2005年のNPT代表団に参加した人がまた行きたいと先頭に立って署名を集めている支部もあります。同県本部では、5000人の会員1人あたり5筆で2万5千筆を目標に、一人ひとりに署名用紙を届けています。

原爆症認定訴訟勝利へ集い

広島

原爆症認定訴訟の原告を支援している、原爆症の認定を求める集団訴訟を支援する広島県民会議（原爆症を支援する会）は6日、「原爆症認定訴訟の勝利をめざすつどい」を開き、全面一括解決の早期実現に向けて全力で奮闘する」とした決議を採択しました。広島県医師会の碓井静照会長が、原爆被爆者認定訴訟に思う」と題して講演しました。

碓井氏は、国が根拠としてきた「原因確率」や放射線量の推定方法（DS86）に科学的な問題があり、4月に導入された新しい認定基準も矛盾を抱えていると指摘。原告団の玉本晴英副団長が決意を語り、佐々木猛也弁護団長が訴訟の経過と展開を報告しました。